Combi

コンビ チャイルドシート

ゼウスターンシリーズ

ゼウスターンS/ゼウスターンEG

2000/01
UNIVERSAL(汎用型)
-18kg
自
C-1005

品質保証書付

●お子さまの安全のために、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、正しくご使用ください。

●裏表紙の品質保証書に、必要事項をご記入ください。

●本書は、シートカバー後ろ側のポケットに保管してください。(11ページ参照)

⚠危険	お子さまの体重が9kg以上になるまで前向きで使用しないこと。

目　次

■お使いいただく前に 1
安全にお使いいただくために 3
各部のなまえ 9
お子さまの体重にあわせた使いかた 13
■車に取り付ける前に
インナークッションの使いかた 15
ベースカバーの使いかた 17
リクライニングの使いかた 18
■車への取り付けかた 19
シートベルトの種類と取り付け上の注意点 20
角度調節マットと角度チェッカーの使いかた 21
取り付け準備 22
座席への取り付けかた 23
取り付け時完了チェックのしかた 28
■車に取り付けた後で
座席の回転のしかた(前向きから後向きへ) 29
座席の回転のしかた(後向きから前向きへ) 31
お子さまにあわせた肩ベルトの調整のしかた 33
お子さまの座らせかた 37
■こんなときには
車のバックルが、シートベルト通し部の角に当たる場合 ... 42
■お手入れのしかた 43
製品仕様 49
保証書 .... 裏表紙

お使いいただく前に

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。
お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、正しくご使用ください。

> チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。また、チャイルドシートを使用するときは、必ず保護者の方が同乗してください。

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

●体重 ： 18kg以下のお子さま。
(参考年齢…新生児※～4才ころ)
7kg未満 → インナークッションを使用
9kg未満 → 必ず後向きで使用
9kg以上10kg未満 → 後向き・前向きどちらでも使用可能
10kg以上 → 必ず前向きで使用

●身長 ： チェストクリップとあごとの間に3cm以上すき間があくお子さま～後頭部が背もたれより上にでないお子さま

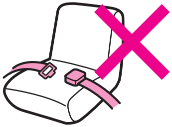
※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上

取り付けできない座席

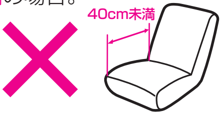
下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかり固定できない場合には使用しないでください。

●シートベルトの付いていない座席。

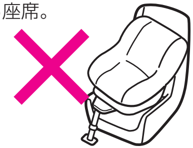
●2点式シートベルトの座席。



●座席の奥行きが40cm未満の場合。



●極端なバケットシート。
…座面の中央が深くへこんでいる座席。



●ヘッドレスト部が極端に出っぱっている座席。
…ヘッドレスト部の形状により、リクライニング操作や回転操作ができない座席。
※ ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずすことで操作が可能になればその座席でも取り付けできます。

次ページに続く

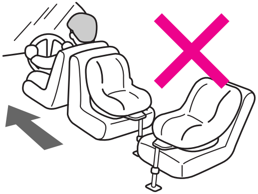
次の条件のいずれか１つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●パッシブシートベルトの付いた座席。

●パッシブシートベルトとは

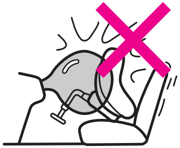
…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。（オートマチックシートベルト）

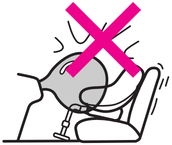
●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。



●エアバッグ装備の座席。

…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

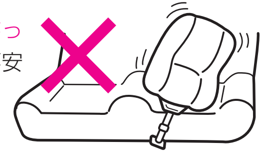




●シートベルトが座席の中間から出ている座席。

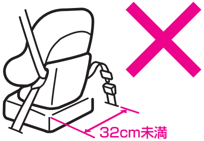
…チャイルドシートのシートベルト通し部の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。

●座席の中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



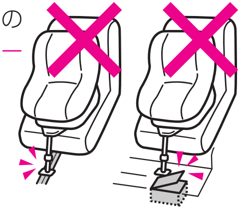
●シートベルトの取り付け幅※が32cm未満の場合。

※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。



●床に対して座面が低い座席または高い座席、床の形状などにより、サポートレッグを正しく調節できない座席。

●サポートレッグの先端部に座席のスライドレールや床下収納スペースなどがある座席。



安全にお使いいただくために

●表示について
本書では、安全に正しくご使用いただくため重要な事項を「危険」、「警告」、「注意」の表示で説明しております。重要事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性が想定される内容です。
ワンポイント	チャイルドシートをご使用いただく上で知っておいていただきたいこと、および知っておくと便利な内容です。

⚠低月齢期間のご注意

● 長時間使用の禁止
お子さまへの負担を考え、長時間連続してのご使用を避け、1時間程度を目安に休憩をとってください。また、お子さまの体調に変化が見られた場合は、すぐに休憩を取るようにしてください。

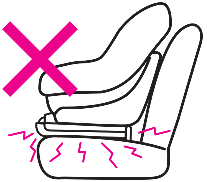
● 保護者の同乗
できるだけ運転者以外に同乗者が乗り、お子さまから目を離さないでください。やむを得ず運転者以外に同乗者がいない場合は安全運転に留意し、休憩時などにお子さまの様子をご確認ください。

⚠危険

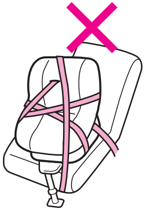
次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

●使用条件に適合しないお子さまや、取り付けできない座席などでは、使用しないでください。

●サポートレッグを収納状態のまま、取り付けないでください。必ずサポートレッグを出し、長さを調節してください。（27ページ参照）
また、サポートレッグを分解して取りはずさないでください。



●車に取り付けるときは、シートベルトを取扱説明書および本体表示に従って正しく通して取り付けてください。誤った部分を通して取り付けないでください。

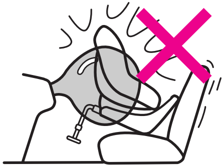


次ページに続く

⚠ 危険

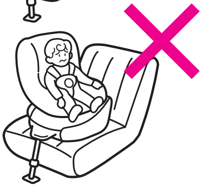
●車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。

●エアバッグ装備の座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

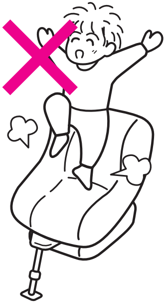


●車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかり固定できないときは、他の座席に取り付けてください。

●チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。(お子さまの乗せ降ろしのときのみ使用してください)

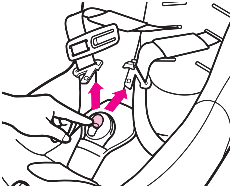


●お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。
座らせたときには、お子さまに股あてパッド、幼児ベルトが正しく装着され、左右の差込タングがしっかりバックルに差し込まれ、表示が緑色に変わっていることを確認してください。



⚠ 緊急時の脱出

事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタンを押し、幼児ベルトとチェストクリップをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。



⚠警告

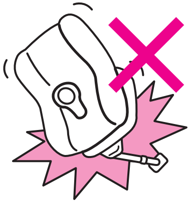
次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

●幼児ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。
- 幼児ベルトは正しい長さに調節してください。(37ページ参照)

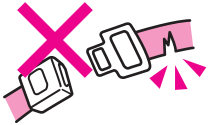
●7kg未満のお子さまを乗せる場合には、必ずインナークッションを正しく取り付けて、お子さまの体にフィットした状態で使用してください。

●サポートレッグを収納した状態で、お子さまを座らせないでください。

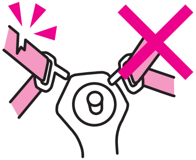
●衝突事故や製品を落下させたときなど、１度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。



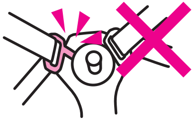
●車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。



●幼児ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問いあわせください。



●バックルにゴミなどが詰まって確実に差し込めない場合は修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問いあわせください。

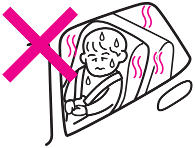


次ページに続く

⚠ 警告

- お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差込タングがバックルからはずれていないことを確認してください。
  はずれていると本来の働きをせず、さらにベルトが首に巻き付くおそれもあります。

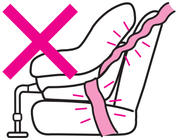
- お子さまを車内に１人で放置しないでください。
  日差しの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の原因となります。必ず保護者の方が同乗してください。



- 車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが、車のヘッドレスト部にぶつかり回転操作できない場合があります。その状態のままで、無理に回転させないでください。故障の原因になります。

次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

- お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



- 助手席にチャイルドシートを後向きに取り付け、ドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。

- シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。

- ２ドアや３ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。

⚠ 日常の点検

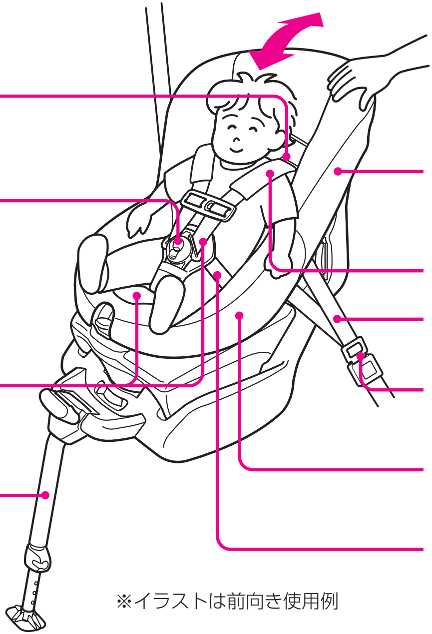
チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

幼児ベルトが肩ベルト通し穴の正しい位置に調整されていること

差込タングがしっかりとバックルに差し込まれ、差込表示が緑に変わっていること

幼児ベルトがお子さまの体にフィットしていること（調節ベルトを引いてフィットさせてください）

レッグエンドが床につくように、サポートレッグの長さが調節してあること



※イラストは前向き使用例

チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること（本体を前後にゆすり、確認してください）

前向き時、座席部背面のレールがベース部の溝に入り接続ピンで確実に固定されていること

幼児ベルトにねじれやたるみがないこと

車のシートベルトにゆるみ、たるみ、ねじれがないこと

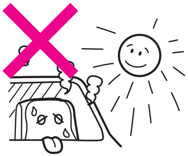
車のシートベルトの差込金具がしっかりとバックルに差し込まれていること

回転操作後、座席部がロックされ確実に前向きまたは後向きになっていること

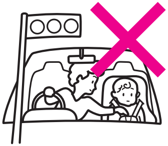
お子さまの骨盤をしっかりと拘束するように、必ず幼児腰ベルトを低く下げること

⚠注意

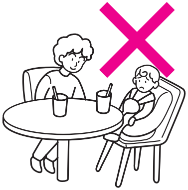
●直射日光が当たると、本体や差込タングなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。夏などの日差しが強い日は、日かげに駐車するか、チャイルドシートにカバーなどをかけてください。また、お子さまを乗せる前に各部をさわり、熱くないことを確認してから使用してください。



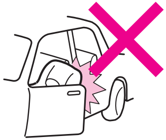
●走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。



●チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがをするおそれがあります。本書に記載されていない使いかたをしないでください。

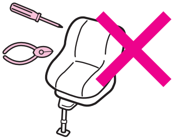


●チャイルドシートを車のシート可動部やドアにはさまないように、十分注意してください。



●チャイルドシートを風雨にさらさないでください。

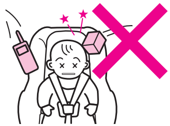
●チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



●車の座席に、付属の角度調節マット以外のクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。

●シートカバーなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。（衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります）

●固定されていない物を車内に置かないでください。急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たる可能性があります。

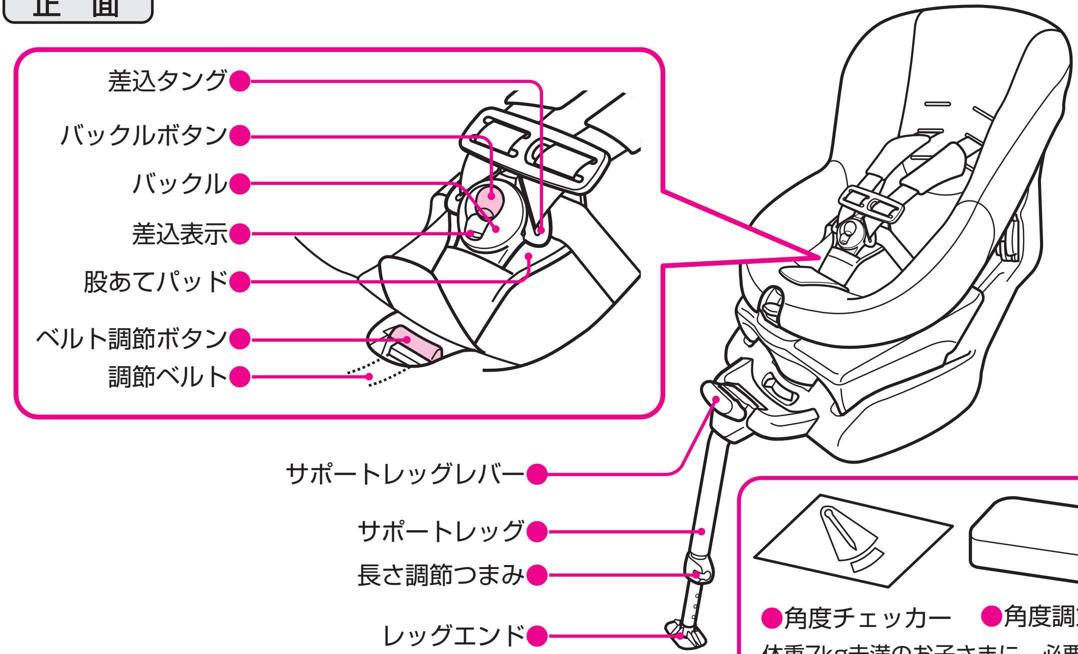


●座席の表皮素材（革など）および形状によっては、取り付けた座席に傷や跡がつくおそれがあります。
別売りの「コンビ ズレ防止・保護シート」の使用をおすすめいたします。

各部のなまえ

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

正　面

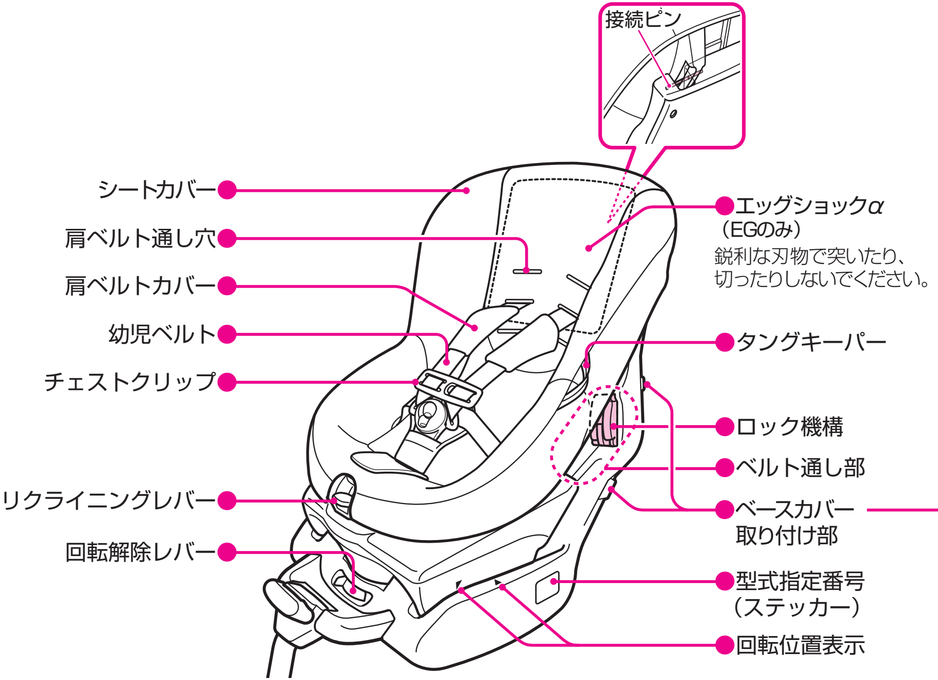


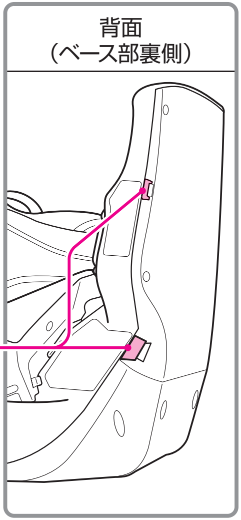
●角度チェッカー　●角度調節マット

体重7kg未満のお子さまに、必要に応じて使用します。
詳しくは、21ページをご覧ください。

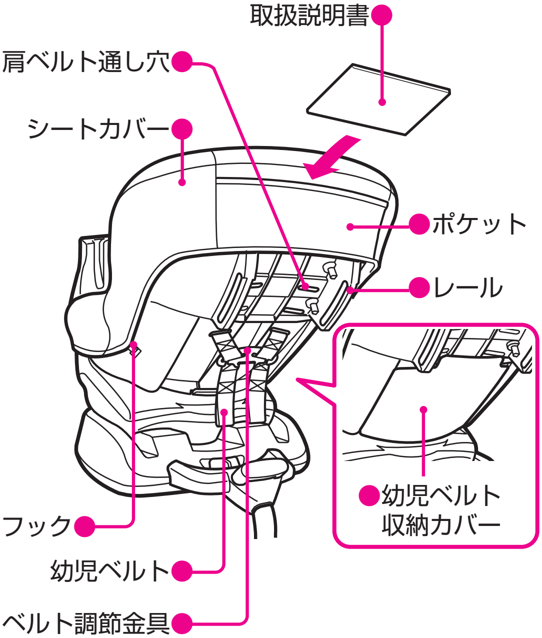
本書に使用しているイラストは、操作方法などをわかりやすく説明するため、
製品とは若干異なる場合があります。

次ページに続く

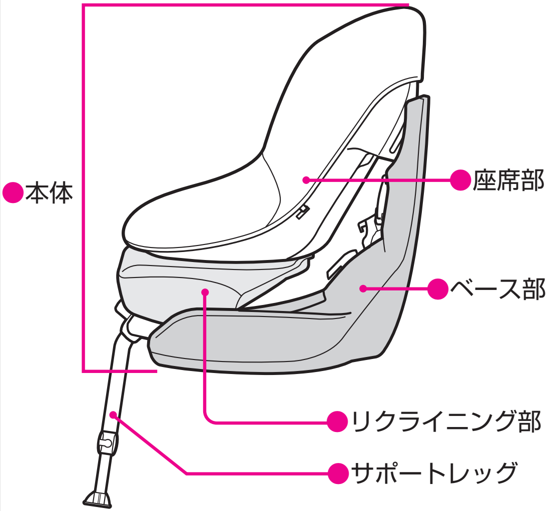




背面・側面



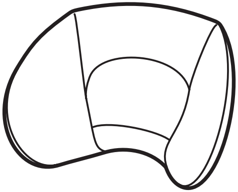
本書で使われる「本体」「座席部」「ベース部」「リクライニング部」とは、以下の部分をいいます。



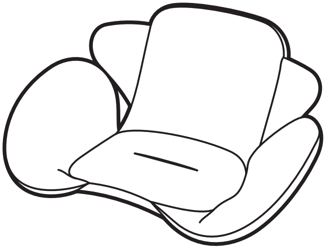
インナークッション

●EG

●頭部用

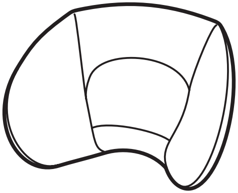


●座面用

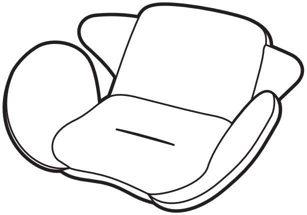


●S

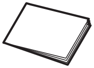
●頭部用



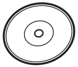
●座面用



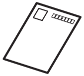
●取扱説明書



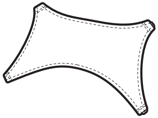
●取り付けかた
DVD



●お客様
登録カード



●ベースカバー



お子さまの体重にあわせた使いかた

ここでは、お子さまの体重による座席部の向き、インナークッションなどの使いかたを説明しています。
お子さまの体重にあわせて正しくお使いください。

お子さまの体重にあわせて、3段階の使いかたをします。

1 体重7kg未満の場合

〔年齢の目安：新生児〜4カ月ころ
（首がすわるころ）〕
※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上。

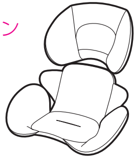
※車の座席角度が極端に大きい場合は、付属の角度調節マットを使用してください。（21ページ参照）

使いかた

①進行方向に対して後向き
②インナークッションは頭部用と座面用を必ずセットで使用する（15ページ参照）

その他の条件

●座らせたとき、チェストクリップとあごの間に3cm以上のすき間があくこと



②インナークッション
頭部用と座面用

⚠注意	お子さまへの負担を考え、長時間連続してのご使用を避け、1時間程度を目安に休憩をとってください。また、お子さまの体調に変化が見られた場合は、すぐに休憩を取るようにしてください。

7kg

2 体重7kg以上〜10kg未満までの場合

〔年齢の目安：4カ月ころ
（首がすわるころ）〜1才ころ〕

使いかた

①進行方向に対して後向き
②ベース部に足が届くようになったらベースカバーを使用する（17ページ参照）
●インナークッションは使用禁止

⚠危険	● お子さまの体重が9kg以上になるまで前向きで使用しないこと。 ● 「年齢の目安」はあくまでも目安です。年齢が上記条件を満たしていても、「体重条件」を満たしていないお子さまはお使いになれません。

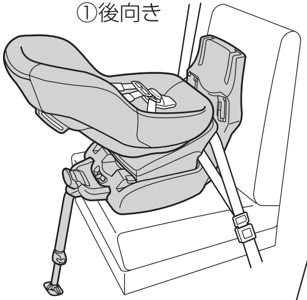
10kg

3 体重9kg以上～18kg以下までの場合

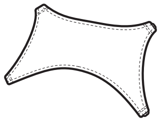
〔年齢の目安：1才～4才ころ〕

9kg未満のお子さまは必ず後向きでご使用ください。

①後向き



②ベース部に足が届くようになったらベースカバーを使用する



9kg

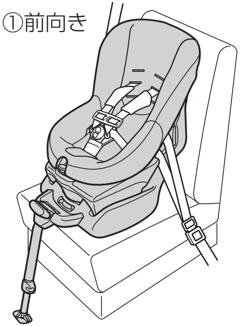
使いかた

①進行方向に対して前向き
●インナークッションは使用禁止
●リクライニングが使用できます（3段階）

その他の条件

●後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

①前向き



18kg

●体重9kg以上～10kg未満のお子さまは、後向き、前向きどちらでもお使いいただけます。

インナークッションの使いかた(7kg未満のお子さまには)

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が7kg未満の場合には、インナークッションをお使いください。(工場出荷時、インナークッションは取り付けられています)
また、7kg以上になりましたら必ず取りはずしてください。

⚠危険

- インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が7kg未満のときだけです。7kg以上で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。
- インナークッション(頭部用)とインナークッション(座面用)は、どちらか片方だけでは使用しないでください。必ずセットでお使いください。
- インナークッションは、取り付けかたをよくお読みになり、正しく使用してください。

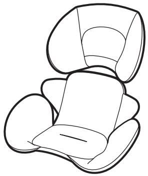
⚠注意

- はずしたインナークッションを車内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

お子さまの体重にあわせて、以下のように使用してください。

1 体重7kg未満

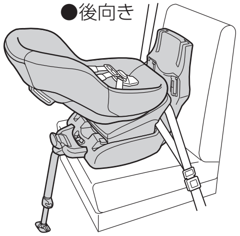
●後向き

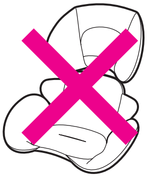


頭部用と座面用をセットで使用

2 体重7kg以上～10kg未満まで

●後向き

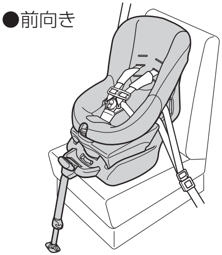


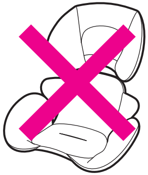


使用しないこと

3 体重9kg以上～18kg以下まで

●前向き





使用しないこと

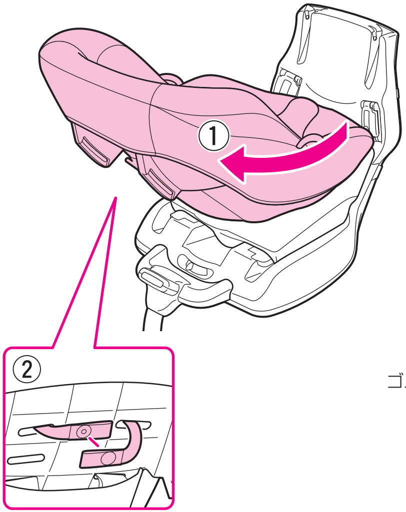
●体重7kg以上のお子さまはインナークッションを使用しないでください。

<頭部用・座面用の両方> 使用期間:「後向き」使用時、体重7kg未満

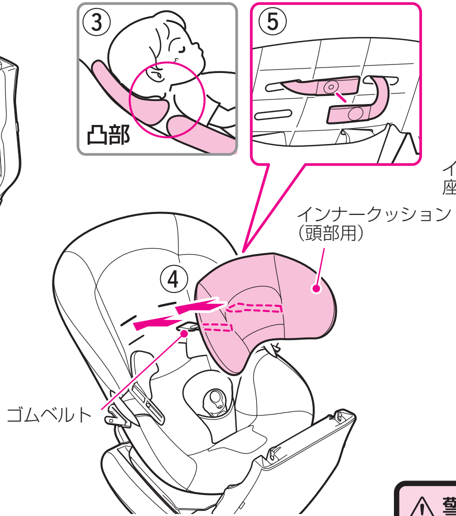
●お子さまの体重が7kg以上では、インナークッションは使用しないでください。

1 インナークッション頭部用を取り付けます。

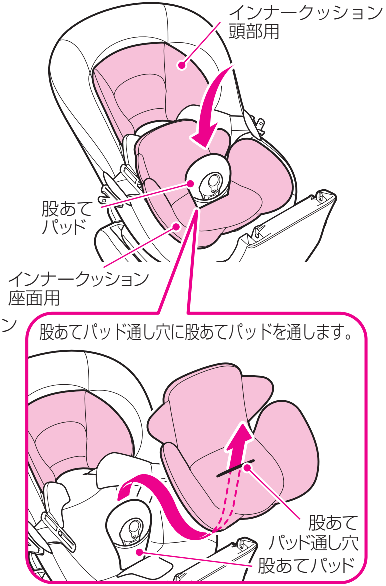
①座席部を回して後向きにし（29ページ参照）、②シート部裏側からゴムベルトのホックをはずし、インナークッション頭部用の取り付け取りはずしをします。



③凸部がお子さまの首に合うように、④ゴムベルトを一番上の肩ベルト通し穴に通し、⑤ホックをとめます。



2 インナークッション座面用を取り付けます。

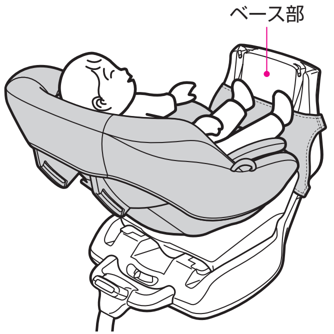


⚠警告	● お子さまの体重が7kg以上では、インナークッションは使用しないでください。

ベースカバーの使いかた

使用期間：「後向き」使用時、
ベース部に足が届くようになったら

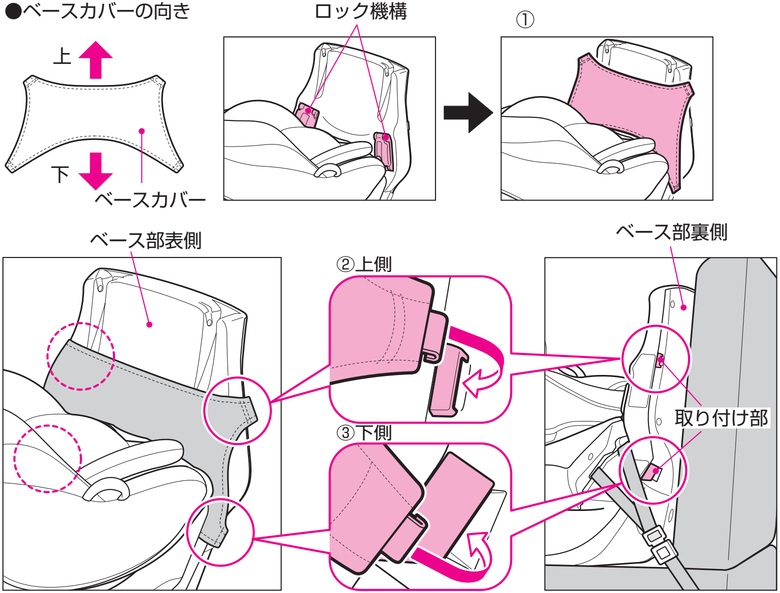
後向き使用の際、お子さまの足がベース部に届くようになったら、ベースカバーを使用し足を保護してください。



ベースカバーを取り付けます。

ベースカバーの向きを確認し、①ロック機構部をかくします。②上側のフック、③下側のフック、あわせて4つのフックを取り付け部に固定します。

●ベースカバーの向き



⚠ 注意

- ベースカバーを取り付けない状態でベース部を素足で蹴ったりこすったりすると、足にすり傷ができる場合があります。
- 靴を履いてのご使用の際は、ベースカバーを取りはずしてください。ベースカバーの破損の原因になります。

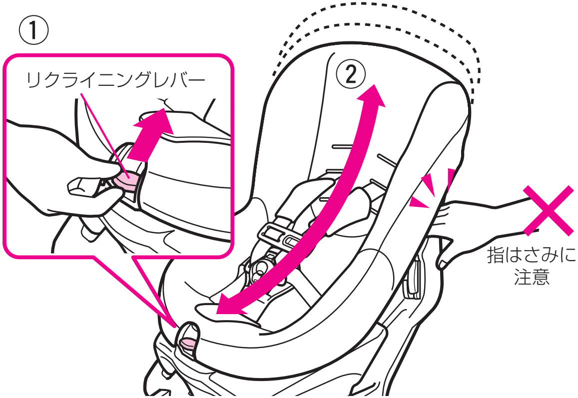
⚠ 警告

- チャイルドシートを車の座席に取り付けてからベースカバーを取り付けてください。

リクライニングの使いかた（前向き使用時のみ）

お子さまが眠ったときなどのために、チャイルドシートを寝かせることができます。
※後向き使用の場合、リクライニングはできません。

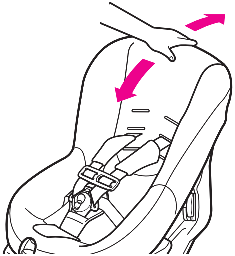
1 ①チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを図の矢印のように上げ、②リクライニングの角度を調節します。（3段階）



⚠注意

- 手をはさまないよう、ご注意ください。
- 同乗者の手元にも、充分ご注意ください。
- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

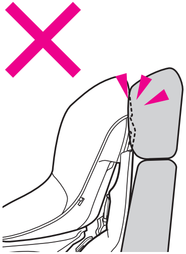
2 レバーから指を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされていることを確認してください。



車のヘッドレストが取りはずせる場合、必ず取りはずしてください。

⚠警告

- 車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作ができない場合があります。その状態のままで、無理にリクライニングさせないでください。
故障の原因になります。



車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、車への取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1ページをご覧ください。

⚠危険

- チャイルドシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能を果たさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- サポートレッグを収納状態のまま、取り付けないでください。必ずサポートレッグを出して、長さを調節してください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
  ※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。
- チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま、走行しないでください。

⚠警告

- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで固定してください。
- シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。
- 付属の角度調節マットは、車の座席角度が極端に大きい場合、体重7kg未満のお子さまに限り使用できます。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

チャイルドシートは、シートベルトの種類により取り付けかたが異なったり、取り付けられない場合があります。

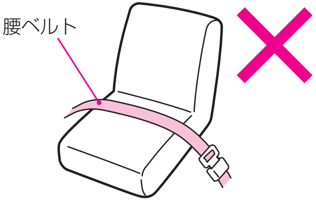
⚠ 危険

- 必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。
- 2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

	シートベルトの種類	シートベルトの特徴（見分け方）	本製品の取り付け注意点
3点式シートベルト	ELR	ゆっくり引くと自由に出入りし、勢いよく引くとロックする。	ゆっくりとシートベルトを引き出して、チャイルドシートを取り付けてください。
	AELR	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すとチャイルドシート固定機能がはたらき、それ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	チャイルドシートの取り付けが終わったら、シートベルトを全て引き出した後ベルトを戻し、チャイルドシート固定機能をきかせてください。
	NR	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	チャイルドシートにあわせてベルトの長さを調節して、チャイルドシートを取り付けてください。
	NLR	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。	
	ALR	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	

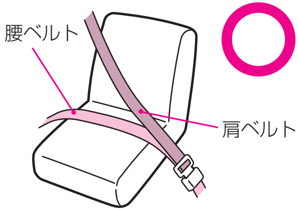
2点式シートベルトとは

図のように、肩ベルトがなく、腰ベルトの左右2点で体を支えるシートベルトのこと。



3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



角度調節マットと角度チェッカーの使いかた

角度調節マットは、車の座席角度が極端に大きい場合、インナークッション使用時(体重7kg未満)に限り使用できます。お子さまの体重が7kg以上になりましたら、必ず取りはずしてください。

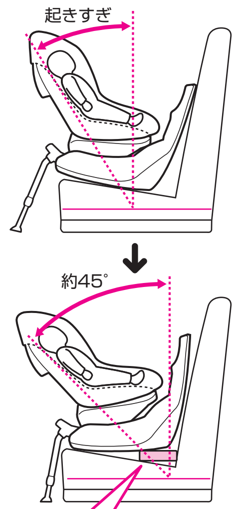
角度調節マットが必要な座席

スポーツタイプのシートや極端にクッションの柔らかいシートの場合、チャイルドシートを後向きに取り付けると、図のように背もたれが起きすぎてしまうことがあります。

この状態でお子さまを座らせると、座りごこちが悪く不安定になります。

●**このような場合に付属の角度調節マットを座席の奥にはさみ、チャイルドシートの角度を図のように45°前後に調節します。**

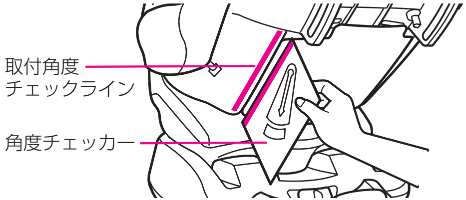
※車を平らな場所に駐車させてください。



●角度調節マット

●体重7kg未満のお子さまを乗せる場合、チャイルドシートを取り付けた後、**角度チェッカー**を使って角度調節マットが必要かどうかを、必ず確認してください。

※角度チェッカーは、図のように「取付角度チェックライン」にあわせてください。



⚠警告

● 角度調節マットを座面の先端や、車の背もたれとベース上部のすき間に使用しないでください。

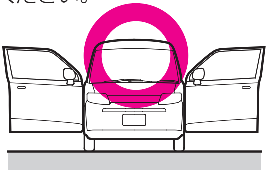
⚠注意

● 角度チェッカーは横にかたむくと針が止まってしまいます。垂直にして針が正しく動く状態で目盛を見てください。

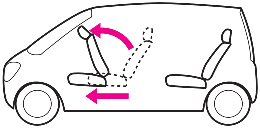
取り付け準備

取り付け作業の前に

1 取り付け作業は、ドアの全開閉操作が可能な、平らな場所で行ってください。

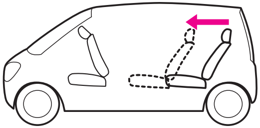


2 車内の作業スペースを確保するため、前座席をたおしたり、スライドさせてから取り付けてください。



取り付け座席のスライド機能について

スライドできる座席に取り付ける場合、取り付ける前に座席を一番後ろにスライドしてください。取り付け手順終了後に取り付け座席を前にスライドさせると、より確実に固定できます。(27ページ「サポートレッグを調整する」作業の前に行ってください)

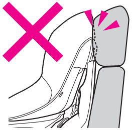


車のヘッドレストについて

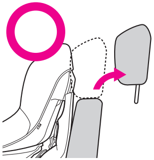
車の座席形状やヘッドレストを確認し、ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。

⚠警告

- 車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができない場合があります。

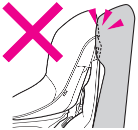


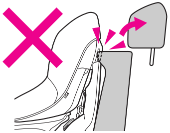
- そのような場合は、無理に操作をせずに、ヘッドレストをはずしてから、再び操作を行ってください。
  無理に操作すると故障の原因になります。



- ヘッドレストがはずれず、リクライニング操作や回転操作ができない場合、および、ヘッドレストをはずしても操作できない場合、その座席では使用しないでください。

※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもご使用いただけます。

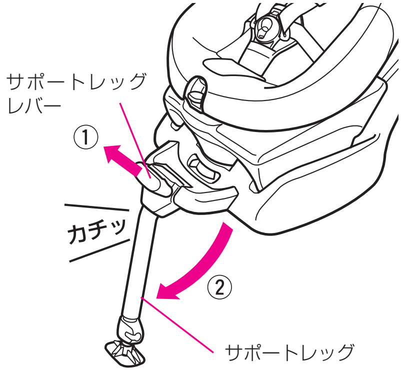




座席への取り付けかた

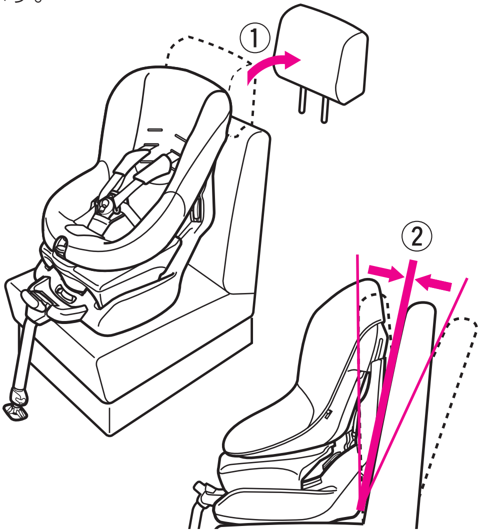
チャイルドシートの取り付け・取りはずしは、座席部を前向きで最も寝かせた状態にリクライニングさせて行ってください。また、お子さまの体重が9kg未満の場合は取り付け後、座席部を回転させて後向きで使用してください。

1 ① サポートレッグレバーを手前に引いて『カチッ』と音がするまで、②サポートレッグを引き出し、車の座席に置きます。



⚠ 危険	● サポートレッグを収納状態のまま、取り付けないでください。

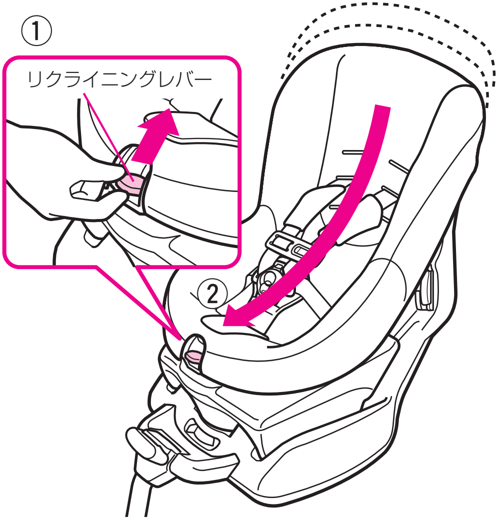
2 ①座席のヘッドレストが取りはずせる場合は取りはずし、②座席の背もたれがリクライニングできる場合はベース部の角度に近い角度に調節します。



車への取り付けかた

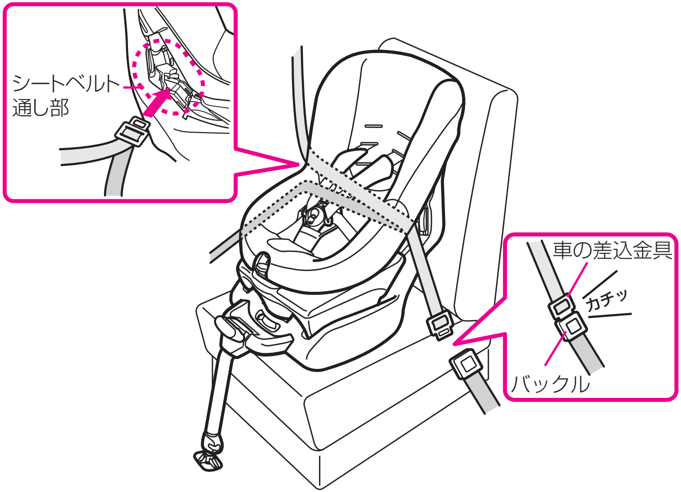
次ページに続く

3 ①リクライニングレバーを上げ、②座席部を最も寝かせた状態にします。

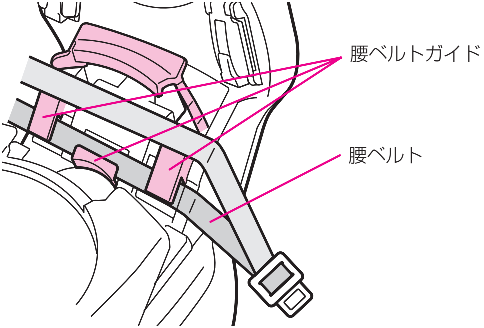


4 車のシートベルトをシートベルト通し部に通し、反対側から引き出します。

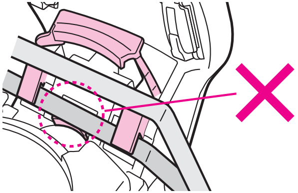
5 シートベルトにねじれがないことを確認し、車の差込金具をバックルに差し込みます。



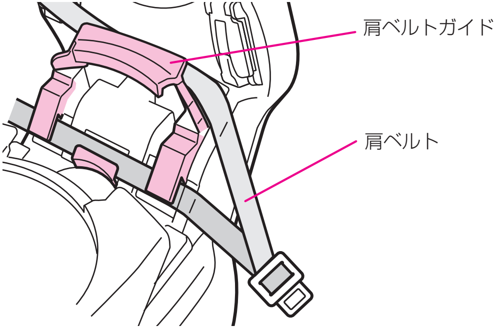
6 シートベルト通し部内の車のシートベルト(腰ベルト)を、腰ベルトガイド(3カ所)に装着します。

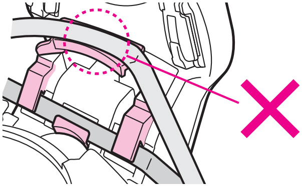


ワンポイント
● 腰ベルトガイドと肩ベルトガイドを間違えないように装着してください。



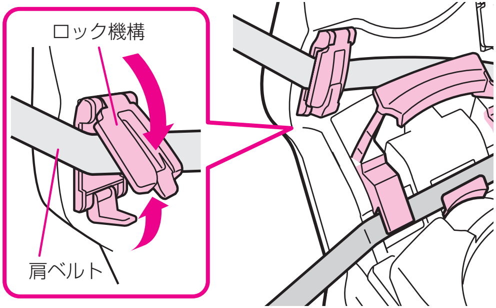
7 シートベルト通し部内の車のシートベルト(肩ベルト)を、肩ベルトガイドに装着します。



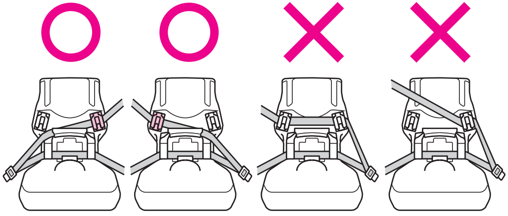


次ページに続く

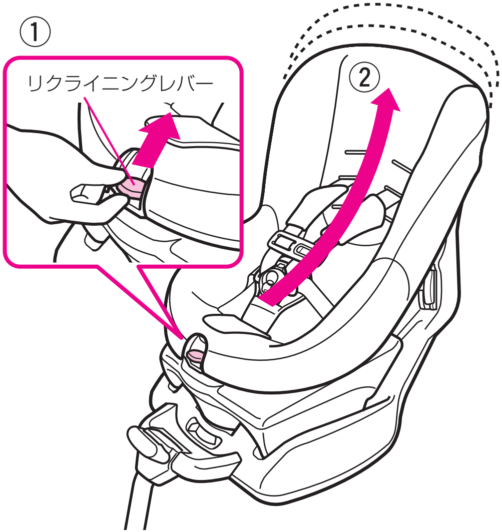
8 車のバックルと反対側のロック機構に、車のシートベルト(肩ベルト)をはさみ込みます。



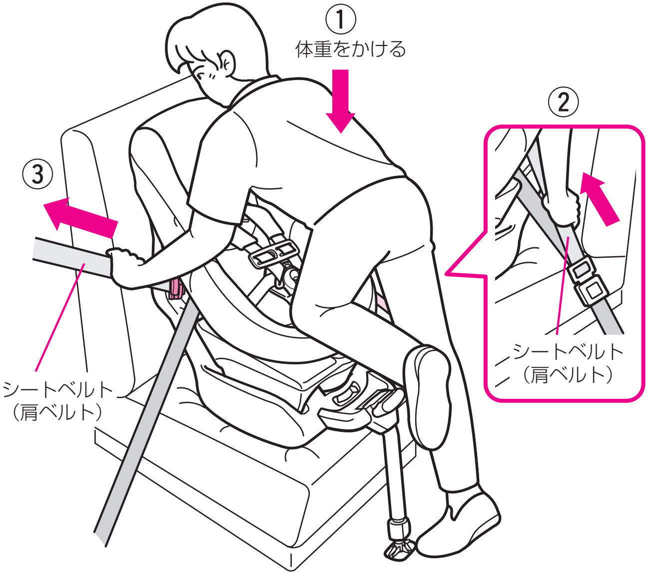
ロック機構は左右2カ所ありますが、使用するのは、車のバックルと反対側のロック機構だけです。



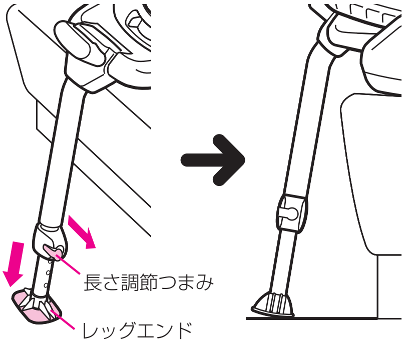
9 ①リクライニングレバーを上げ、②座席部を最も起こした状態にします。



10 ①チャイルドシートにひざを乗せて体重をかけ、座席に沈み込ませながら、②差込金具上部のシートベルト(肩ベルト)を強く引き、③反対側のシートベルト(肩ベルト)を横方向に強く引き、シートベルトのゆるみをなくします。



11 サポートレッグの長さ調節つまみを引いて、レッグエンドを車の床まで伸ばし、長さ調節つまみを戻します。(12段階調節)



⚠ **危険**

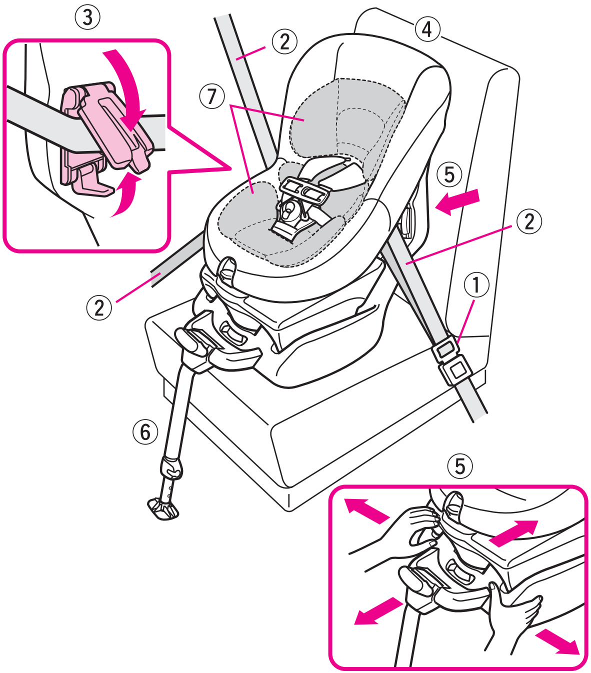
- サポートレッグを分解して取りはずさないでください。
- 長さ調節つまみを戻したとき、レッグエンドが必ず床についていること。

ワンポイント

- 穴の位置が合わないと、長さ調節つまみは戻りません。その場合は穴の位置が合うようにチャイルドシートを少し持ち上げながら、長さ調節つまみを確実に戻してください。

取り付け時完了チェックのしかた

⚠警告　取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか確認してください。しっかり固定されていない場合は、チャイルドシートが本来の機能を果たさず大変危険です。



① 車のシートベルトの差込金具が、バックルに「カチッ」と音がするまで差し込まれ、シートベルトを引っぱっても抜けないこと。

② 車のシートベルトに、ゆるみ、たるみ、ねじれがないこと。

③ 車のバックルと反対側のロック機構に、車のシートベルト(肩ベルト)がはさみ込まれていること。

④ チャイルドシートの背もたれと車のヘッドレスト部がきつくぶつかっていないこと。

⑤ 車の座席の背もたれと、チャイルドシートのベース部の背面がしっかり接していること。
ベース部を前後左右にゆすって、ベース部が約3cm以上動かないことを確認してください。

⑥ レッグエンドが床につくように、サポートレッグの長さが調節されていること。

⑦ お子さまの体重が7kg未満の場合は、インナークッション(頭部用・座面用の両方)を取り付けてあること。7kg以上は両方とも取りはずしてあること。

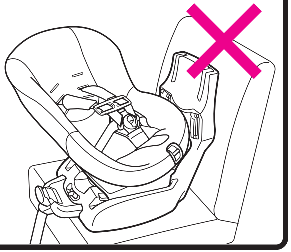
⚠警告

● これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合は車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

座席部の回転のしかた（前向きから後向きへ）

⚠ 危険

● チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。横向きでは、本来の機能を果たさず危険です。



⚠ 警告

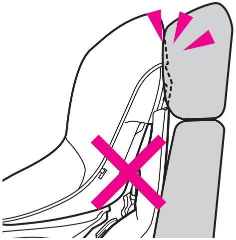
チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができない場合があります。

● 無理に操作すると故障の原因になります。ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。

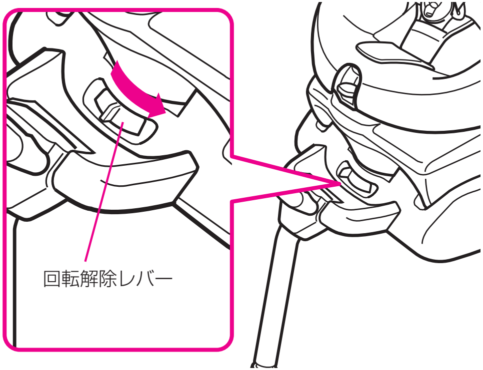
● ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもお使いいただけます。

● ロック機構が開いた状態で座席部を回転しないでください。故障の原因となります。



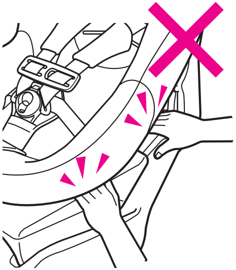
1 回転解除レバーをスライドさせます。



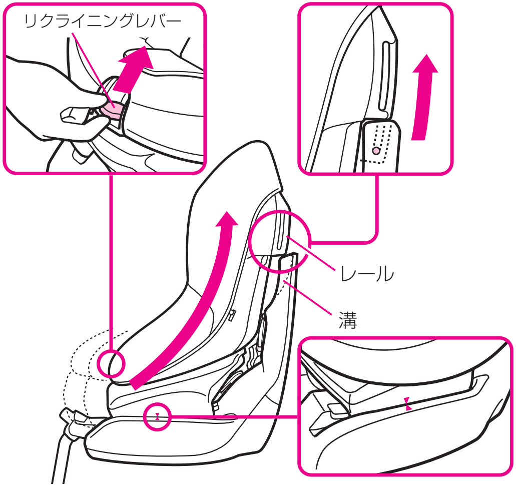
⚠ 注意

● 座席の背部や下部のすき間に手や指を入れたまま、回転操作しないでください。

● お子さまを乗せた状態で回転させるときは、お子さまの手足がベース部と座席部の間などにはさまらないようご注意ください。

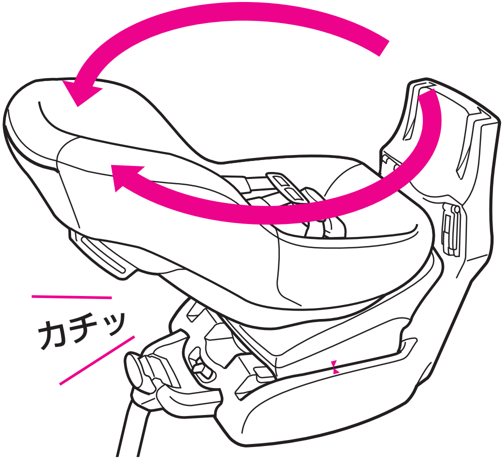


2 リクライニングレバーを上げたまま、ベース部とリクライニング部の回転位置表示がそろう位置まで座席部を押し込むようにして起こします。



⚠ 警告	● 回転位置表示がそろっていない状態では、回転操作を行わないでください。 むりに回すと故障の原因になります。

3 そのまま座席部を回し、動き始めたらリクライニングレバーから指を離してください。座席部が後向きになると、『カチッ』と音がしてロックがかかります。



4 座席部を左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。

座席部の回転のしかた（後向きから前向きへ）

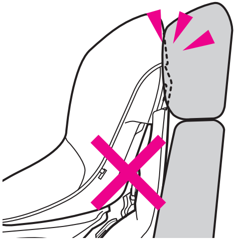
⚠警告

チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができない場合があります。

- 無理に操作すると故障の原因になります。ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずしてご使用ください。
- ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

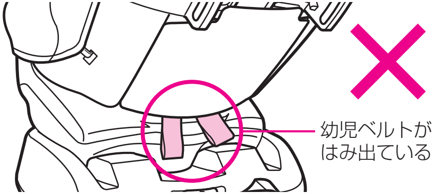
※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもお使いいただけます。

- ロック機構が開いた状態で座席部を回転しないでください。故障の原因となります。

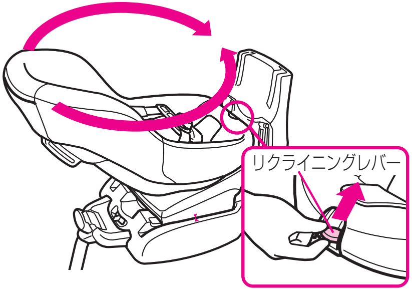


⚠注意

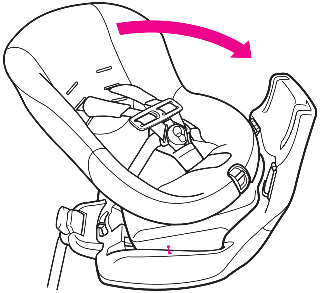
- 幼児ベルトが幼児ベルト収納カバーからはみ出していないことを、確認してください。幼児ベルトがはみ出していると、回転部にからまり、故障の原因となります。（36ページ参照）



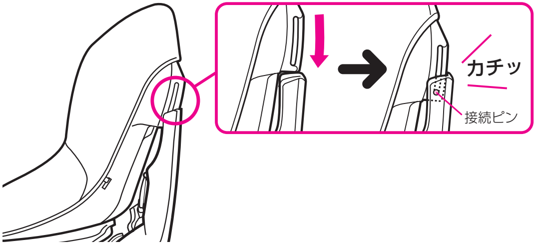
1 リクライニングレバーを上げ、座席部を回します。動き始めたら、リクライニングレバーから指を離してください。



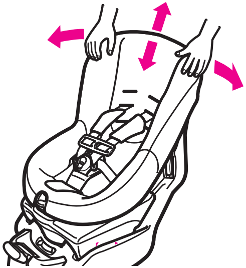
2 座席部を回して、前向きにします。



3 座席部背面のレールがベース上部の溝の位置にくると、座席部が1段下がり、『カチッ』と音がして接続ピンで座席部とベース部が固定されます。

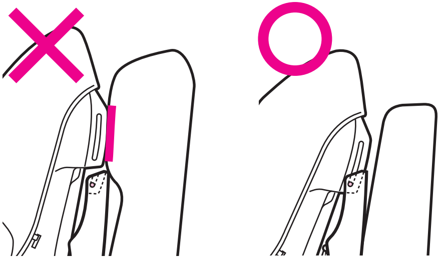


4 座席部を上下左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。



⚠警告

● チャイルドシートの座席部のレールがベース部の溝に入らずに接続ピンが戻らない状態ではチャイルドシートの座席部とベース部が固定されておらず万一の際本来の機能を果たさず、危険です。必ず、レールがベース部の溝に入り接続ピンで完全に固定されていることを確認してください。



お子さまにあわせた肩ベルトの調整のしかた

お子さまの肩の高さにあわせて肩ベルト通し穴の位置を決め（工場出荷時は一番下になっています）、お子さまの体格にあわせて幼児ベルトの長さを決めます。

低月齢のお子さまの場合

体重7kg未満のお子さまの場合は、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」と「幼児ベルトの長さ調節のしかた」については、特に注意してください。

⚠危険

- 肩ベルト通し穴の位置と幼児ベルトの長さが適正かを確認してください。
- 幼児ベルトが正しく肩にかかっていることを確認してください。

※これらの調節が誤っていると、車の衝突時にお子さまがチャイルドシートから飛び出してしまうおそれがあります。

⚠注意

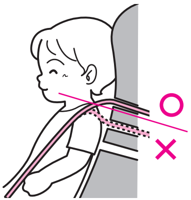
- お子さまへの負担を考え、長時間連続してのご使用を避け、1時間程度を目安に休憩をとってください。また、お子さまの体調に変化が見られた場合は、すぐに休憩を取るようにしてください。

⚠警告

- 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体にあっていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。

1 肩ベルト通し穴の位置

肩よりすぐ上の肩ベルト通し穴を使用します。

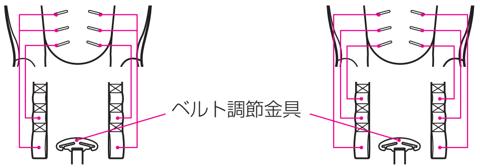


⚠警告 お子さまの肩よりすぐ上の肩ベルト通し穴を使用してください。

2 ベルト調節金具への取り付け位置

下の図を目安に、お子さまの体格にあわせて、ベルト調節金具への取り付け位置を決めます。

●大きめの体格のお子さま　　●標準的～小さめの体格のお子さま

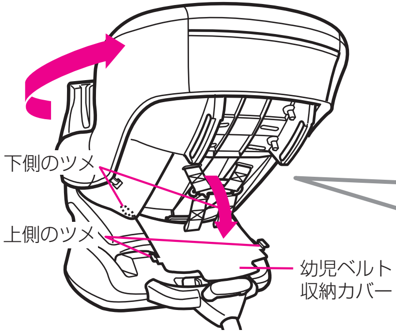


⚠警告 ベルト調節金具に取り付ける幼児ベルトの位置は、左右同じ段を使用してください。

次ページに続く

1 お子さまを座席部に座らせ、正しい肩ベルト通し穴の位置を確かめます。（33ページ1「肩ベルト通し穴の位置」参照）

2 座席部を回転させて後向きにし、幼児ベルト収納カバーの上側のツメをはずし図のように開きます。

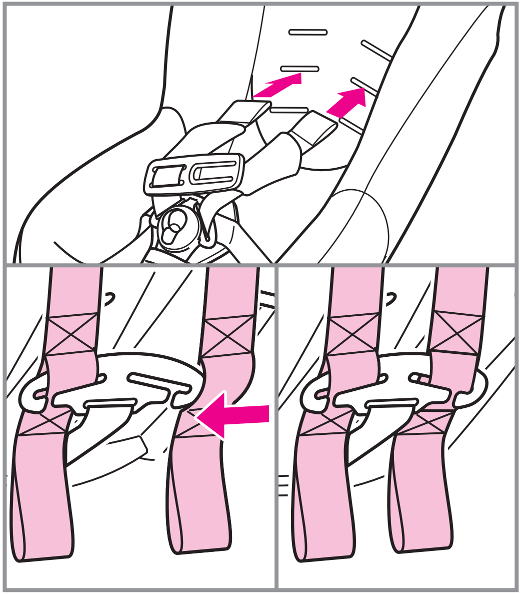


⚠注意

- 幼児ベルト収納カバーを開くときは、下側のツメは、はずさないでください。幼児ベルトがはみ出し回転部にからまり、故障の原因となります。
- 幼児ベルト収納カバーは、肩ベルト位置の変更後、必ず元の位置に戻してください。幼児ベルトがからまるなど、故障の原因となります。

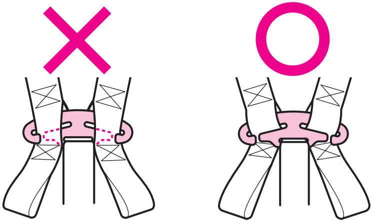
3 ベルト調節金具から幼児ベルトをはずし、座席部前面から引き抜きます。

4 幼児ベルトを、お子さまの体にあった肩ベルト通し穴に入れ直し、裏側でベルト調節金具を取り付けます。

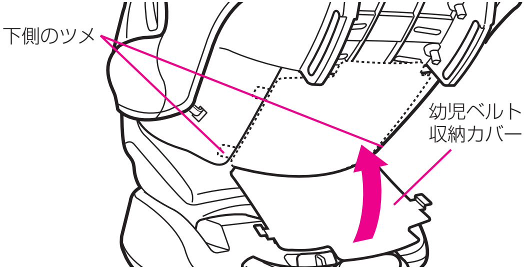


⚠警告

- 肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。
- ベルト調節金具に取り付ける幼児ベルトの位置は、左右同じ段を使用してください。
- ベルト調節金具に幼児ベルトを取り付けるときは、正しく取り付けられた状態をすぐに確認できるように、ベルト調節金具の切り込み位置が見えるように取り付けてください。

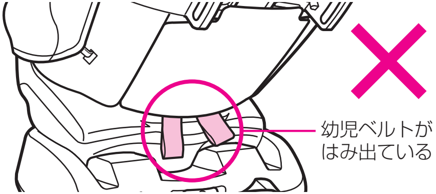


5 幼児ベルトが出ないように、幼児ベルト収納カバーを閉じます。



⚠注意

- 幼児ベルト収納カバーを開くときは、下側のツメは、はずさないでください。幼児ベルトがはみ出し回転部にからまり、故障の原因となります。



お子さまの座らせかた

あらかじめ、**ベルト通し穴の位置**と**幼児ベルトの長さ**を、お子さまの体にあわせてください。（33ページ参照）

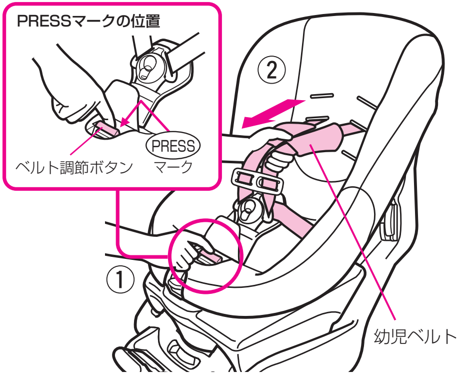
⚠警告

- おくるみなど、両足が分かれない衣類の着用はおやめください。

- お子さまをタオルなどでくるんだまま、乗せないでください。
- かさばったベビーウェアを着せたまま、乗せないでください。
- お子さまを乗せるときには、下図のような乗せかたをしないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

1 お子さまを乗せやすくするため、座席部を横向きに回転します。（29～32ページ参照）

2 ①カバーの下のベルト調節ボタンのPRESSマークを**押しながら**、②左右の幼児ベルトの両方を持ち手前に引き、ゆるめます。

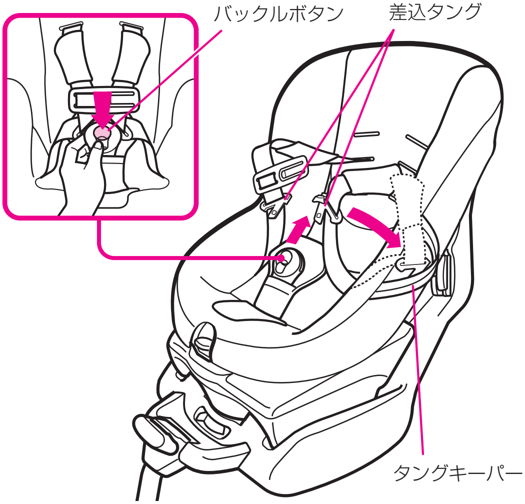


ワンポイント

- ベルト調節ボタンを押すときは、ボタンのPRESSマークを確実に押してください。
- ベルト調節ボタンが動かない場合は、調節ベルトを手前に引っぱりながら、ベルト調節ボタンを強く押し込んでください。

次ページに続く

3 チェストクリップの右片方を幼児ベルトからはずし、バックルボタン(赤色)を押して差込タングを抜きます。

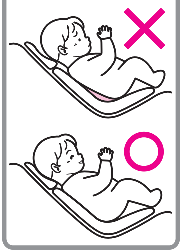


ワンポイント

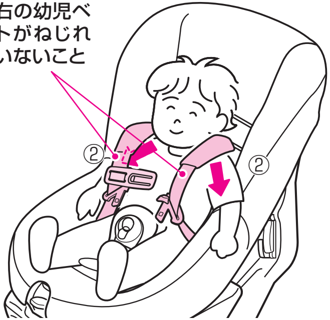
● 差込タングをシートカバー側面にあるタングキーパーに差し込んでおくと、お子さまの乗せ降ろしの際にじゃまになりません。

4 ①お子さまのおしりが、インナークッションの一番深い部分におさまるように深く座らせ、②左右の腕を幼児ベルトに通し、③インナークッション頭部用の凸部がお子さまの首に合っているか確認します。④肩ベルトカバーをお子さまの肩の位置にあわせます。

①インナークッションにあわせてお子さまを深く座らせてください。

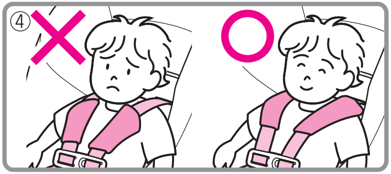


左右の幼児ベルトがねじれていないこと

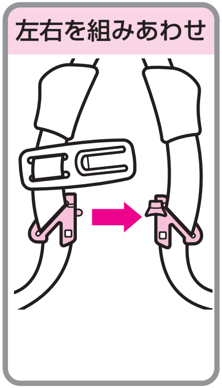


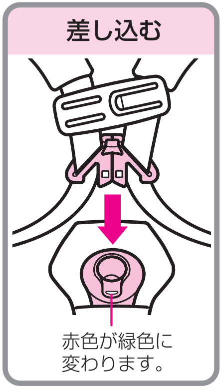
インナークッション頭部用

肩ベルトカバー



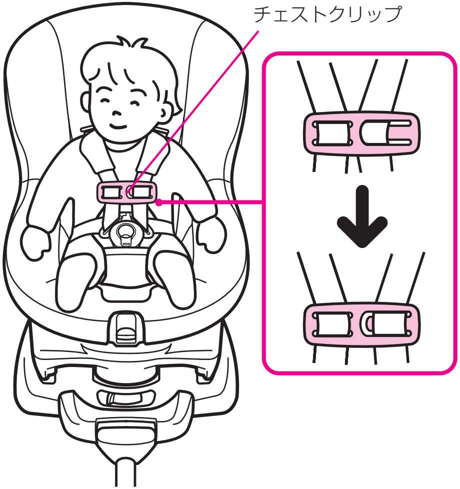
5 左右の差込タングを組みあわせてから『カチッ』と音がするまで、差込タングをバックルに差し込みます。
差込表示が「緑色」に変わっていることを確認してください。





警告
- 左右の差込タングが、完全にバックルに差し込まれて表示が緑色になっていないと、衝突時にお子さまが飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するなどのおそれがあります。

6 チェストクリップを幼児ベルトに取り付けます。

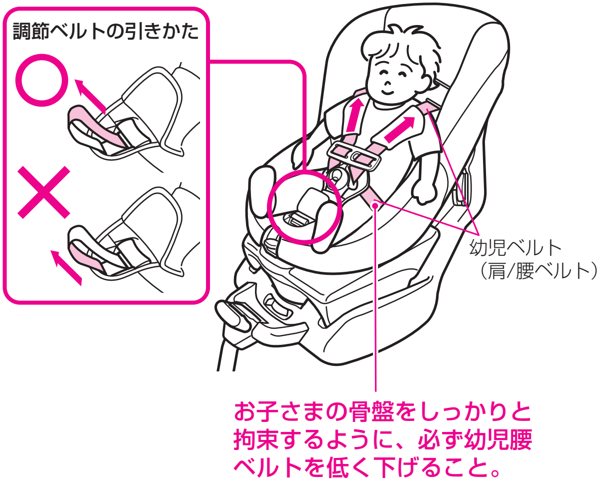


ワンポイント
- バックルは、お子さまの力ではずれないよう固くしてあります。
- お子さまを座らせていないときも、差込タングをバックルに差し込んでおいてください。

次ページに続く

7 お子さまを乗せ終わったら、幼児ベルトを短く調整します。調節ベルトの上側を手前に引き、左右の幼児ベルトをお子さまの体にフィットさせます。

カバーの下の調節ベルトを引きます。



ワンポイント
- 調節ベルトの下側を引いても幼児ベルトは短くなりません。上側を引いてください。

ワンポイント
- お子さまが窮屈でないように、また幼児ベルトがたるんだり、ゆるまないように調節してください。
- お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入るくらいが適切です。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児ベルトの長さを調節してください。

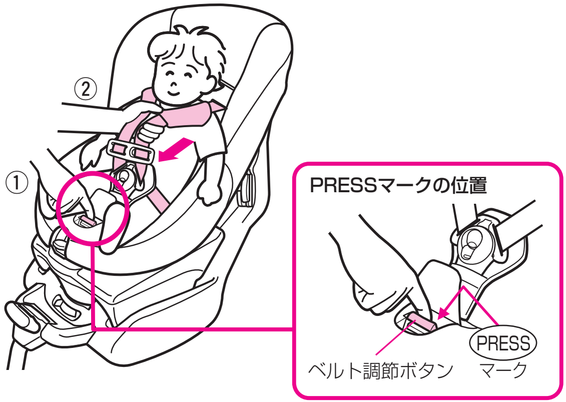
⚠警告
- 必ずベルトの長さを調節してください。お子さまの体にフィットしていないと、衝突時にお子さまが飛び出したりするおそれがあります。
- 調節ベルトを引っ張りきってもたるみがある場合は、ベルト調節金具への取り付け位置を変えてください。（33ページ参照）
- 幼児ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

8 座席部を回し、お子さまの体重にあわせて後向き、または前向きにして使用します。（13ページ参照）

> **⚠注意**
> - お子さまを乗せた状態で回転させるときは、お子さまの手足がベース部と座席部の間などにはさまらないようご注意ください。
> - ゆっくりと回転させ、お子さまの手足が本体などにぶつからないようにご注意ください。

幼児ベルトを長くするには（お子さまをおろすときは）

①カバーの下のベルト調節ボタンのPRESSマークを押しながら、②左右の幼児ベルトの両方を持ち手前に引き、ゆるめます。

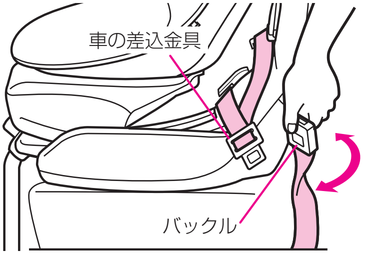


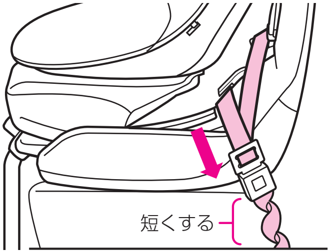
ワンポイント

- ベルト調節ボタンを押すときは、ボタンのPRESSマークを確実に押してください。
- ベルト調節ボタンが動かない場合は、調節ベルトを手前に引っぱりながら、ベルト調節ボタンを強く押し込んでください。

こんなときには

シートベルト(短ベルト)のバックルがシートベルト通し部の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。





1 差込金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに1～3回ひねりを加えて短くします。

2 もう1度差込金具をバックルに差し込み、固定します。

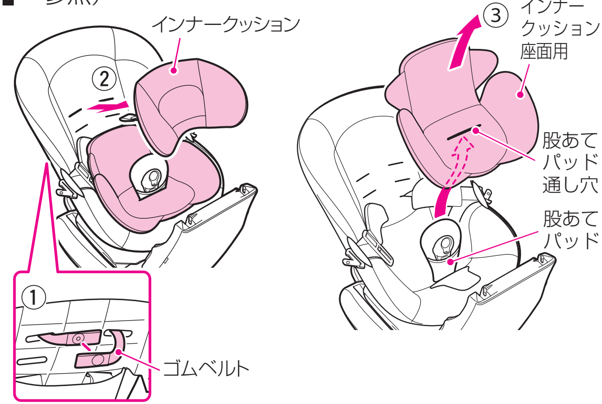
※ 1～3回ひねりを加えてもシートベルト通し部の角に当たる場合は、当社専用のフィットマット(別売)をご使用ください。(ただし、付属の角度調節マットとの併用はできません)

⚠ 警告	● ひねりを加えてもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

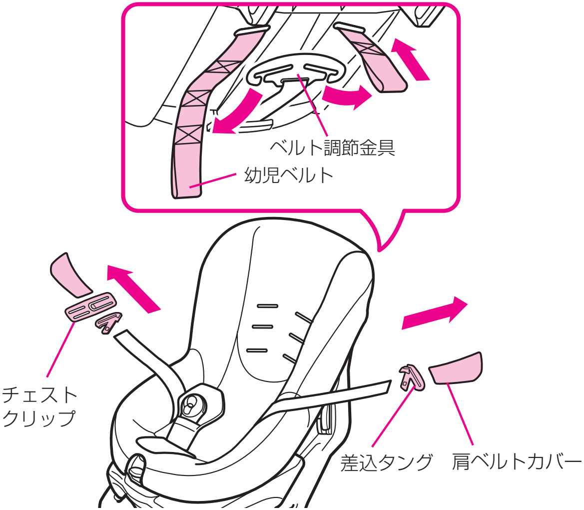
お手入れのしかた

シートカバーのはずしかた

1 インナークッションをはずします。（16ページ参照）



2 左右の幼児ベルトを、本体裏側にあるベルト調節金具からはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。（34ページ参照）
幼児ベルトから差込タング、チェストクリップと肩ベルトカバーをはずします。

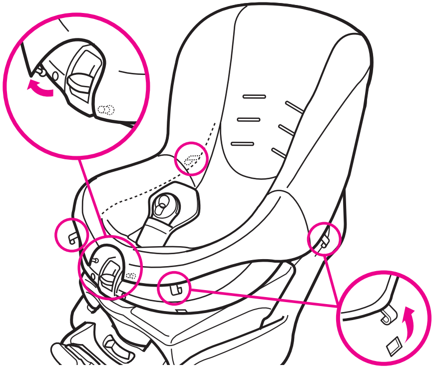


ワンポイント

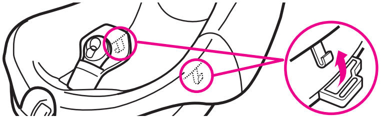
- 差込タングは、左右を確かめて、股あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。
- インナークッション座面用を洗濯するときは、中に入っているウレタンをぬいてください。

次ページに続く

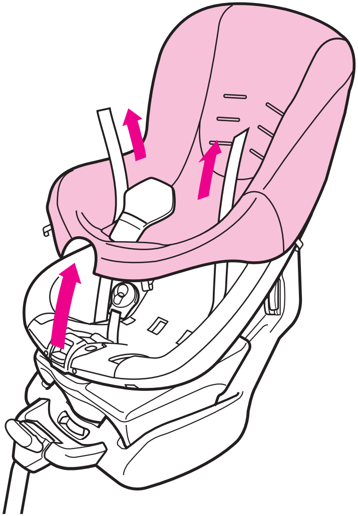
3 シートカバーの外側にある6カ所のフックをはずします。



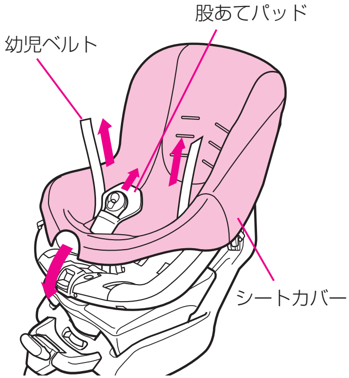
内側2カ所のフックをはずします。

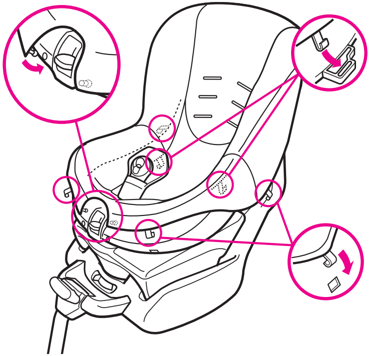


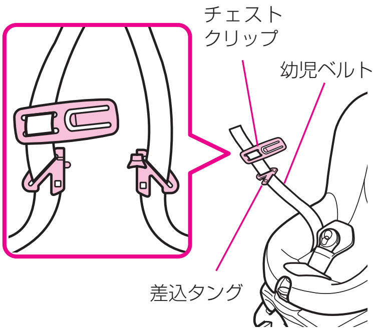
4 股あてパッドのところからシートカバーをはずし、幼児ベルトを引き抜き、そのまま上に引き上げます。



シートカバーの取り付けかた





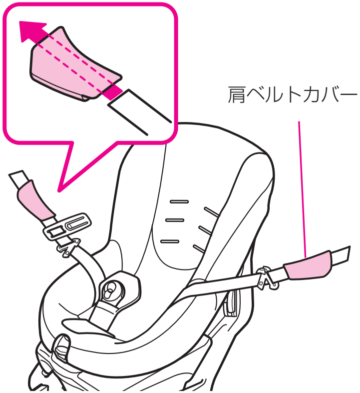


1 シートカバーを本体の背の部分にかけ、バックルを股あてパッドの穴から通し、シートカバーを全体にかけ、幼児ベルトをねじれないように表側に引き出します。

2 シートカバー内側のフック2カ所と、シートカバー外側のフック6カ所を、それぞれ本体の溝にとめます。

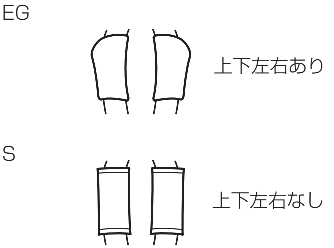
3 幼児ベルトに差込タング（左右、表裏を確認してください）とチェストクリップを通します。

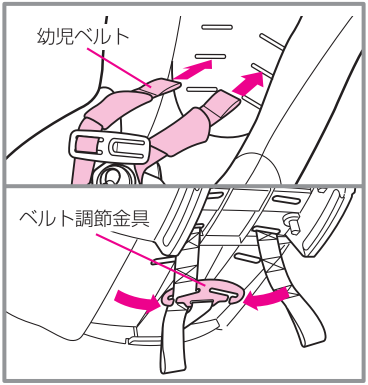
次ページに続く



4 幼児ベルトに肩ベルトカバーを取り付けます。

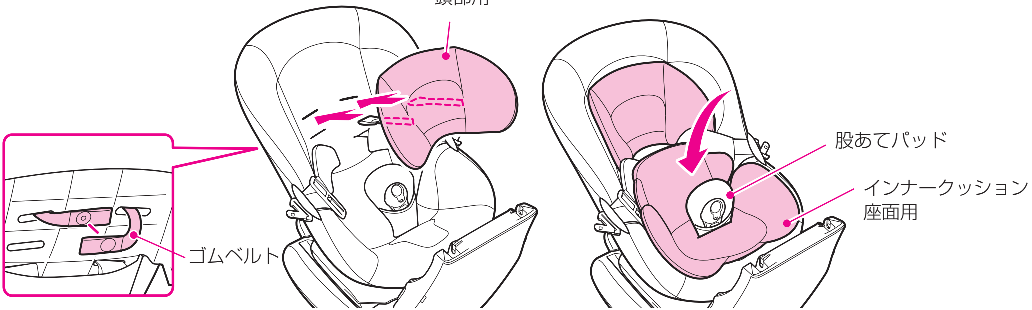
ワンポイント
● EGの肩ベルトカバーには、上下左右があります。間違えて取り付けないようご注意ください。





5 幼児ベルトを肩ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。(ベルト調節金具への取り付けは、「お子さまにあわせた肩ベルトの調整のしかた」33ページ参照)

シートカバーの取り付けかた



6 お子さまの体重が7kg未満の場合には、インナークッションを使用します。（15ページ参照）

⚠警告	お子さまの体重が7kg以上では、インナークッションは使用しないでください。

次ページに続く

シートカバーなどの縫製品の洗いかた

●洗濯時は次のことを守ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。

●インナークッション座面用を洗濯するときは、中に入っているウレタンを取りはずしてください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

※洗濯機、脱水機、乾燥機の使用はしないでください。

本体、幼児ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

> ⚠警告
> ● 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

本　体

長期間使用しないときは、車から降ろし、風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

取扱説明書

ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解の上、シートカバー後ろ側のポケットに保管してください。（11ページ参照）

廃棄のしかた

●お住まいの各自治体の規程にしたがい処分、廃棄してください。

●衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。事故により処分する場合は、本製品が再利用されないようにシートカバーなどをはずして、廃棄してください。

製品仕様

■製品サイズ：(W)480 × (D)645 × (H)720
■製品重量　：EG ……………………………… 13.9kg
　　　　　　　S ……………………………………… 13.8kg
■材質　　　：本体…ポリプロピレン、ウレタン
　　　　　　　シートカバー…表／ポリエステル　裏／ウレタン

製品を安全に、正しくお使いいただくために。

製品を安全に正しくお使いいただくための情報を、当社ホームページでご案内しております。下記のホームページをご覧ください。

http://www.combi.co.jp/safetyinfo/index.html

品質保証書
コンビ　チャイルドシート

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から下記期間中製品の故障が発生した場合は、本書をご提示の上、当社コンシューマープラザ、または、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

製品名	ロットNo. （背もたれ裏面のシールをご覧ください）		保証期間 お買い上げ日より1年間 （ただし保証規定による）
お客様	お名前		お買い上げ日 年　月　日
	ご住所　〒	TEL	
販売店	店　名	TEL	
	住　所		

修理メモ

保証規定

1. １度ご使用になった製品は、原則としてお取り替えできません。
2. 保証期間内（お買い上げ日より１年間）に正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。電話にてお問い合わせの上、当社コンシューマープラザにお送りください。
3. 保証期間内でも次のようなものは有料修理になります。
   - (a) プラスチック部品の自然劣化による変色。
   - (b) シートカバーなど、縫製部品の傷や破れ。
   - (c) お客様の誤使用、または改造や不当な修理による故障および損傷。
   - (d) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変による故障および損傷。
   - (e) 本書に、製品名、お買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
   - (f) 本書のご提示がない場合。
   - (g) 一般家庭以外で、業務用やレンタル等でご使用され故障した場合。
   - (h) 有料修理の場合に要する運賃などの諸経費。
4. 衝突事故など、１度でも強い衝撃を受けた製品の修理はできません。
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。海外からの修理サービスは致しかねます。
6. 製造中止後の製品については必要部品の在庫がなくなった場合、修理できないこともあります。

- お買い上げ後、製品名、お買い上げ日、お客様名、販売店名をただちにご記入願います。
- 万一故障が生じました場合は保証書をご提示ください。本書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- 領収書（レシート）を本書と一緒に保管してください。
- この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、当社コンシューマープラザ、またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 品質保証書にご記入いただいた個人情報は、故障・修理の確認、修理品の発送にのみ利用いたします。それ以外の用途には利用いたしません。

コンビ
ゼウスターン
Combi

コンビ株式会社

Web上にコンビの育児サイトを開設しています
コンビの製品&育児情報サイト・コンビタウン
http://www.combibaby.com

129666000　09.12

商品に関するお問い合わせ、部品購入、修理などのご相談は、コンシューマープラザにて対応いたします。

コンシューマープラザ（Customer Service Center）　受付時間：10：00〜17：00（日祝日、年末年始を除く）
〒339-0025　埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田271　TEL. (048) 797-1000　FAX. (048) 798-6109

コンシューマープラザ（Customer Service Center）/西日本担当　受付時間：10：00〜17：00（土日祝日、年末年始を除く）
〒540-0026　大阪府大阪市中央区内本町2-4-16　TEL. (06) 6942-0379　FAX. (06) 6942-0302

※ホームページでのご案内　http://www.combi.co.jp/cp/